

水泳授業、全学年で実施

きれいに清掃し、水も満ちたプール、6月20日(月)は3年生、21日(火)は4年生、22日(水)は2年生、そして23日(木)は1年生が、水泳の授業を受けました。屋上の天気は風通しも日当たりもよく、天候に恵まれた4日間、いつもよりたくさんの先生方に見守られながらの授業です。プールサイドではマスクをはずすので、おしゃべりはできません。当然ながら時々歓声があがったのは確かですが、全体としては口をしっかりと閉じて、先生のお話をきちんと聞きながら、交代でプールに入りました。泳げる子も、ちょっと水が怖いと思っている子もいますが、水泳授業は泳力を競う場ではありません。自分のできなかったことができるようになったと実感する場です。授業後、子どもたちの晴れ晴れとした表情は、とてもうれしいものでした。



屋上に設置されたプール
スカイツリーや東京タワーを見ることが
できます。

開校年以來の約3年ぶりのプール学習



なお、体育の学習では安全第一を考え、服装や持ち物が整っていない場合は、見学の措置をとることとしています。水泳授業も同様です。張り切って学校に来たけれど、残念ながら見学となった子どもも各組にいました。次回の水泳授業こそ、忘れ物がないようにしたいですね。なお、準備が整っていなければ参加できない場合があるのは、ほかの授業や校外学習などでも同じです。また、指示に従えない子どもにも、見学の措置を取ることがあります。これは本人だけではなく、友だちの学習を妨げたり、危険にさらしたりする可能性があるためです。子どもたちには、授業に向かう心構えこそが大切であることを理解してほしいと思います。

稲花フレンドタイム

4年生になり、特別活動がはじまりました。本校は最上級生が4年生ということで、一般的な特別活動を行うのではなく、年度ごとに検討を重ね、農大稲花らしい取り組みをする方針で準備を進めてきました。

学習指導要領第6章の第1「目標」では、特別活動の目標として、

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

ということが示されています。今学期はまず、4年生自らが様々な異学年交流を計画・実践することとし、これを「稲花フレンドタイム」としてスタートしました。

6月17日(金)の「稲花フレンドタイム」、体育館で上級生として下級生に接する子どもたちは、いつもと違った表情を見せていました。まだ幼いところがあり、学級内ではけんかしたり、もめたりすることもある4年生なのですが、この日は、一致団結、下級生への指示も中々しっかりしたものでした。この日に向けて、4年生は休み時間をうまく利用して道具や飾りの準備、当日の運営方法の話し合いなどを重ねてきました。1週間前にはリハーサルで準備や片付けの段どりまで練習していたのです。この下準備があって当日は順調に実施することができました。そして、4年生が目的に向かって動く一つの集団として行動できているのにも驚きました。自主的な動きを尊重し、周囲で見守っていたのですが、子どもたちに「場」を与えれば、それにふさわしくふるまえる、あるいはふるまうように成長するのだということが実感できた時間でした。

ザリガニマスター誕生

3年生の稲花タイムでは、東京農業大学教職課程 武田晃治教授に、カラフルザリガニの授業をしていただきました。1回目はザリガニをカラフルにするための餌作りからスタートしました。2回目はそのまとめでした。毎日、子どもたちが餌をやり、水を替えて飼育してきたザリガニも、すこしずつ色が変わってきました。



まとめの授業の後、子どもたちは(そして、教職員も)武田先生からのご厚意で、ザリガニマスターのバッジをいただきました。昨年さらにバージョンアップしたデザインのバッジです。子どもたちがこれを大切に、ザリガニを通して学んだ生物の不思議や環境の問題に思いをはせてほしいと願っています。

東京農業大学「食と農」の博物館

6月24日(金)の稲花タイムでは、1年1組が東京農業大学「食と農」の博物館と隣接する(一財)進化生物学研究所バイオリウムを訪問し、見学しました。博物館の館員そしてバイオリウムの研究員から、子どもたちは初めて見る展示資料や生き物のお話を集中して聞いていました。この日は特別にレムールの園舎のバックヤードに入れていただき、目の前で詳しいお話を聞いたり、餌やりを体験したりして子どもたちはやや興奮気味。すっかり、お話に引き込まれていました。一年生にはちょっと難しいかな?という内容でも、真剣に聞いてきちんと理解できている様子はさすがです。ご関係の皆様には、一般の訪問者としてでは体験できない農大稲花小スペシャルプログラム?を実施していただき、感謝しています。

また、6月25日(日)「日本経済新聞」朝刊付録の「NIKKEI プラス 1」では、東京農業大学「食と農」の博物館が自然科学系博物館として堂々の第1位として紹介されていました。これからも、農大稲花小の子どもたちを、この自慢できる博物館・バイオリウムに連れていきたいと思っています。なお、1年2組は、今週の金曜日に訪問です。こちらもご関係の皆様にはお世話になります。

◇ 一般財団法人進化生物学研究所 URL

<https://www.nodai.ac.jp/rieb/>

◇ 東京農業大学「食と農」の博物館 URL

<https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/syokutonou/>

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子